



二ノ宮正八幡宮

文 碑

○ 二ノ宮正八幡宮 (旧郷社)

○ 一 祭神 応神天皇・神功皇后

玉依姫

○ 勝利の神 安産・子育ての神

○ 一 由緒 明治十二年に神社庁で編纂された神社明細帳によれば、本神社は勧請年月縁起沿革等は不明であるが、古来より当村の内河原高田部落の産土神として祭られており、最古の記録としては、二ノ宮惟宗(これむね)本井右兵衛尉が(惟宗を氏とする氏族。平安時代に始まる氏族で秦氏の子孫で明法家(律令の法律家)天文十五年丙午年(千五百四十六年)に写し残した棟札があったとされ(江戸末期の再建時に紛失)、それによれば、後宇多天皇御宇弘安四年(千二百八十一年・元寇の役の年)に建立されたものと判断されている。また、明治十二年には長曾我部元親(1539~1599)*1575年に一条氏を攻め追放しこの地域を支配下に置いた。)が武運長久のため再建した旨の棟札が現存していたと記されている。少なくとも鎌倉時代からの伝統ある神社である。

○ 明治五年に社格は村社とされたが、同十二年十月一日に郷社とされた。

その2

- 神躰記云正八幡宮神躰鏡
- 建立・再建の時
- 一二八一年（弘安四年）
記録上の最古年
- 一五九二年（天正二〇年）長宗我部元親 武運長久祈願
- 一六九九年（元禄二年）
- 一八六〇年頃（江戸末期）
- 一九八七年（昭和六二年）
- 出典 宿毛市史資料内神社明細帳より

1 はじめに

(1) 神社庁

官公庁ではないが、全国の神社を束ねる神社本庁の下に各県に神社庁が設置されている。神社明細帳は明治の廃仏毀釈の際に取り纏められたもの。

(2) 産土（うぶすな）神

地縁者の神（血縁者の神＝氏神）

この地で生まれたものは、何処にいても死後も守られる。

(3) 二ノ宮惟宗本井右兵衛尉
二ノ宮神社の祭神となった人

(4) 惟宗（これむね）
秦氏の子孫で平安時代に始まる氏族
明法家（律令の法律家）

(5) 日本の三大八幡宮

* 宇佐八幡宮 571年頃の建立

* 石清水八幡宮 清和天皇により860年に宇佐より分社
京都の守り神

* 鶴岡八幡宮 1063年に河内源氏の頼家が石清水に勧請
1081年源義家が修復

2 祭神その1 応神天皇（戦：勝利の神）

- (1) 第15代天皇 3世紀頃、現代からみて神代から有史へと解明されつつある時代の天皇で、日本を統一（大和）されたとみられている。
- (2) 死後の名を「誉田（ほむた）天皇」
- (3) 「続日本紀」によれば、571年に「誉田天皇は広幡の八幡大神なり」とお告げがあり、3世紀に大挙して渡来した秦氏（秦の始皇帝の4代目）により宇佐の地に八幡神として祭られ始めた。

祭神その2 神功皇后（勝利の神）

- 1 応神天皇の母 仲哀天皇の後
- 2 仲哀天皇の急死で、身ごもったまま新羅征伐に百済、高句麗も門下に靡いたので三韓征伐といわれる。
- 3 九州に凱旋し、応神天皇を生む。（18か月）
- 4 この時、多くの秦韓の民が渡来したといわれる。

祭神その3 玉依姫（子育て、縁結びの神）

- 1 霊（たま）の憑（より）つく巫女、 神
- 2 綿津見大神（海神）の子で、豊玉姫（海津見神社の祭神：川島山鎮座）の妹
- 3 孫が神武天皇

八幡（はちまん）さんのロマン

- 1 八幡（やはた）は、ヘブライ語でイスラエル12部族の1つでユダ族を意味する「ヤフダ」に酷似
- 2 大和（ヤマト）は、ヘブライ語で「神の民」
- 3 ユダ族の象徴（紋章）は「獅子」
狛犬を安置することにより、ユダ族の流れをくむ秦氏の存在をアピール

高知南西部は幡多というが、秦を意味するのか